

## みんなでヘルスケア診療の成果を発信していこう！

高橋 啓（日本ヘルスケア歯科学会代表）

私が代表になってこの約2年間は、ヘルスケアの活動を振り返る時間でもありました。現在の日本ヘルスケア歯科学会は、先送りしてきた課題も多く、その道筋を付けていくことも大事な仕事となっています。当会の歴史を振り返ると、今ではあたりまえになりましたが、9枚法の口腔内写真を考案し、普及させました。予防歯科、定期メンテナンスを整理して、日本の臨床現場に合うかたちを示してきました。そのようななかで、う窩ができる前のコードもあるICDASをただ紹介するのではなく、フォトパネルを作成して普及につとめ、日本に定着させてきました。カリエスマネジメントは、なかなか日本の臨床現場に合うものがなかったため、CRASPを作り活用を提案してきました。そんな日本の歯科臨床を進化させてきた26年です。さらに当会は、会員皆が積み上げてきた「臨床データ」や「長期症例」があります。ただ、「臨床データ」や「長期症例」を整理するのは、面倒な作業でもあります。ここに価値があるのはわかっているのですが、もうひとつ発信できていません。ぜひみなさん、発信する取り組みに力を貸してもらえないでしょうか。難しいことをしようという話ではありません。あなたの医院の貴重な「臨床データ」を「長期経過良好症例」を発信して欲しいのです。「発信する」とはここで言う「発信する」とは、皆が引用できるかたちで発信していくことになります。原著論文、調査報告、症例報告といろいろなかたちがあります。それぞれの医院でできるかたちで発信してはどうでしょうか。たとえば、臨床例が得意な医院は、長期の症例報告をまとめるのもいいでしょうし、医院でデータ入力をしているならば、メンテナンス患者の動向などを調べてみるのも面白いかもしれません。とにかく、等身大のヘルスケア歯科診療室を世の中に発信できればと思います。当然、歯科衛生士の症例報告も大歓迎です。動き始めています（倫理審査委員会）ただ、発信しようと言っても、なかなかハードルは高いことでしょう。何をどうすればいいの？と止まってしまうこともあるかと思います。現在、「臨床データ」の発信には、倫理審査を受けなければならないという規定が一般的です。以前から当会にも、倫理審査委員会はありましたが、なかなか稼働できずにいました。それを2024年から具体的に動かし始めています。今後どのようなかたちで、より稼働させていくかは相談中なのですが、一つのハードルを下げていっています。臨床データをまとめる際には、当会の倫理審査委員会にも相談をよろしく願います。臨床研究プロジェクトに参加しませんか昨年「臨床研究プロジェクト」というWebのミーティングを充足させました。岡恒雄さん（倉敷市）を中心に2ヵ月に1回、勉強会を行っています。今は自院のデータを発信するべく、回を重ねております。参加希望の方がいたらぜひ、加わってください。まずは高橋（info@tak-dental.com）まで連絡をください。詳細を聞いたうえで、参加を決めてもかまいません。興味を持っている方、ぜひ一緒にやりましょう。皆の色んな工夫を発信しようこれ以外にも、ヘルスケア診療を発信することは、いろいろあるかと思います。あなたの医院の長期症例をヘルスケアミーティングでポスター発表にまとめるだけでも価値があります。また、当会は臨床を実践する医院の集まりなので、「こんな工夫をしています」「こんなことをやったら、とても良かった」といった日常の工夫も発信して欲しいです。皆さんがヘルスケア診療で積み重ねてきた日常臨床には、大きな価値があると思うのです。しかし、それを発信しなければ輝きません。ぜひ発信していきましょう。ヘルスケア診療は、通院する患者のためにもなり、診療をする我々にもやりがいを与える診療です。我々には長期通院をしてヘルスケア診療を支持してくれる多くの患者がいます。このかたちを進化させ、日本に残していきましょう。当会は、時に助け合い、教え合いながら、前に進んでいく会です。ヘルスケア診療への取り組みが大変なときは、ぜひ相談してください。相談しやすいところでは、会員ホームページから、毎月第二火曜日のオンラインサロンに参加してみるのもいいと思います。ヘルスケアミーティングやワンデーセミナーなどに参加して、直接相談も大歓迎です。ぜひいろいろな場を活用してください。2025年も皆でよい年にしていきたいと思います。